

関東大震災から100年 「もしも」を「いつも」に

9月1日は  
防災の日

災害が起こる前に  
できること



関東大震災  
東京駅前の焼け跡、日本橋方面  
(気象庁ホームページより)

1923年9月1日に発生した関東大地震は、相模湾北西部を震源とするマグニチュード7.9と推定され、千葉県内においても、土砂崩れや木造住宅の倒壊・火災などが原因で、多くの方が犠牲となりました。

いつ起こるか分からない「もしも」の災害に備えて、「いつも」準備しておきましょう。



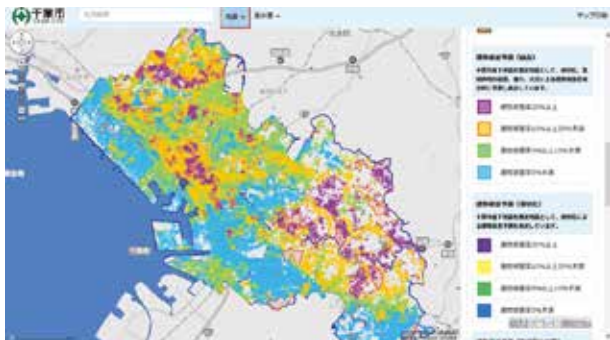
自助とは、いざというとき自分や家族の命と財産を守るために、自分自身で、家族全員で備えることです。

普段から災害に関する知識を身に付け、災害を正しく理解し、何を備えておけばよいか考え、災害に対する準備をしておきましょう。

☎防災対策課 ☎245-5113 FAX245-5597



ハザードマップを確認しよう



©2023 ZENRIN Date Com  
地図データ©2023 ZENRIN

千葉市直下地震の想定震度や建物被害予測は、地震・風水害ハザードマップ (WEB版) で確認できます。災害時には、アクセス集中により閲覧しづらくなりますので、あらかじめ自宅周辺の危険箇所を確認し、家族や地域で、安全に避難できる避難先や避難経路について日頃から話し合ひましょう。

詳しくは、[千葉市 ハザードマップ](#)

分散避難を検討しよう

指定避難所以外の安全な場所に分散避難をすることで、避難所への避難者の集中を避けることができ、感染症予防や、多くの人が集まることで生じるトラブルを回避することができます。

避難とは、難を避けることです。避難先は指定避難場所だけではありません。マンションなど頑丈な建物に住んでいて、安全が確保できる場合は在宅避難、安全な親戚・知人宅への避難が可能な場合は縁故避難を検討してください。避難所以外に避難していても、食料や物資は、指定避難所で受け取ることができます。

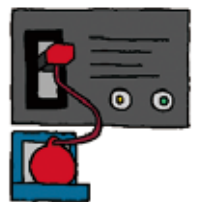
なお、市ではより身近な地域の避難先として、町内自治会の集会所を、申請に基づきあらかじめ地域避難施設として認定しています。

詳しくは、[千葉市 地域避難施設認定制度](#)

感震ブレーカーを  
設置しませんか?

阪神・淡路大震災や東日本大震災で発生した火災の6割以上は、電気が原因といわれています。

感震ブレーカーは、設定値以上の揺れを感知したときに、ブレーカーやコンセントなどの電気を自動的に止める器具で、地震による電気火災対策に効果的です。製品ごとの特徴や注意点を踏まえて、適切に選びましょう。



詳しくは、[千葉市 感震ブレーカー](#)

☎消防局予防課

☎202-1613 FAX202-1669

非常用の備蓄品や持ち出し品を準備していますか?

災害発生直後は、食料や日用品の購入が難しくなります。

家族構成などを考慮して、必要な備蓄をしておきましょう。

非常備蓄品チェックリスト

- 食料品 缶詰・レトルト食品など簡単な調理で食べられるもの (1人最低3日分)  
\*アレルギーがある方は、自分に適したものを備蓄しましょう。
- 飲料水 ペットボトル飲料水など (1人1日3リットルを目安)
- 生活用品 携帯トイレ、マスク、消毒液、ウエットティッシュ、体温計、生理用品、使い捨て手袋、歯ブラシ、カセットコンロなど
- 照明、電源 ランタン、乾電池、携帯電話の予備バッテリーなど

非常持ち出し品チェックリスト

- 貴重品 現金、預金通帳、キャッシュカード、印鑑、健康保険証、運転免許証、マイナンバーカードなど
- 避難用具 懐中電灯、携帯ラジオ、ヘルメット、長靴など
- 衣料品類 着替え、下着、靴下、スリッパ、タオル、軍手、雨具、防寒具など
- その他 紙皿、紙コップ、割りばし、眼鏡 (コンタクトレンズ)、救急医薬品 (ばんそうこう・包帯など)、常備薬のほか、【上記】非常備蓄品

\*必要に応じて、哺乳瓶、ミルク、離乳食、おむつ、母子健康手帳、持病薬、お薬手帳なども用意しておきましょう。



備蓄品は  
ローリングストックしよう!



ローリングストックとは、災害時に自宅で当面生活できるように、日頃から自宅で利用しているものを少し多めに買い置き、日常生活で消費した分を新たに買い足すことで無駄なく備蓄することです。食料や飲料水などの備蓄品は、最低3日分、できれば1週間分を用意しましょう。